

2021年 昼間部

科目		基礎指圧実技				
科目分野	専門	分野	学 期	前 中 後 期		
学 年	1	年次	担当教員	小林秋朝(45年)、浪越雄二(30年)、黒沢純一(20年)		
単位数	7	単 位	(実務経験)	高橋雄輔(10年)、大久保直子(10年)、小俣文華(3年)		
<p>【授業の概要】 授業形態 講 義</p> <p>創始者浪越徳治郎先生の基本指圧、基本指圧の全身操作の順序、指の使い方、姿勢、圧の入れ方等を学ぶすなわち全身指圧の習得。及び自己指圧、坐位指圧の習得。 授業の進行は予定の進度表に準じて反復繰り返し進めて行います。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>全身の基本圧点を正確に圧せるようになる。指圧の3原則＝垂直圧。持続圧。集中の原則ができるようになる。圧の加減すなわち漸増、漸減圧をコントロールできるようになる。全身を90分で施術することができるようにする。</p>						
回	日付	授業計画		回	日付	
1	4/3	オリエンテーション・自己指圧 頭部・顔面		26	6/9	仰臥位 下肢①+②
2	4/7	自己指圧 顔面・頸部		27	6/9	伏臥位 伏臥位①(後頭部～肩甲間部)
3	4/7	自己指圧 頸部・腹部		28	6/12	伏臥位 伏臥位①(後頭部～肩甲間部)
4	4/10	自己指圧 上肢		29	6/16	伏臥位 伏臥位②(肩甲下部～腸骨稜上部)
5	4/14	自己指圧 下肢		30	6/16	伏臥位 伏臥位②(肩甲下部～腸骨稜上部)
6	4/14	自己指圧 背部・腰部		31	6/19	伏臥位 伏臥位③(仙骨部～大腿後側部)
7	4/17	座位 頸部～肩甲間部～脊柱なでおろし		32	6/23	伏臥位 伏臥位③(仙骨部～大腿後側部)
8	4/21	座位 頸部～肩甲間部～脊柱なでおろし		33	6/23	伏臥位 伏臥位④(膝窩部～背部調整法)
9	4/21	仰臥位 頭部		34	6/26	伏臥位 伏臥位④(膝窩部～背部調整法)
10	4/24	仰臥位 頭部		35	6/30	伏臥位 伏臥位①+②+③+④
11	4/28	仰臥位 顔面		36	6/30	伏臥位 伏臥位①+②+③+④
12	4/28	仰臥位 顔面		37	7/3	伏臥位 伏臥位①+②+③+④
13	5/8	仰臥位 上肢①(腋窩部～前腕部)		38	7/7	復習 仰臥位 頭部・顔面
14	5/12	仰臥位 上肢①(腋窩部～前腕部)		39	7/7	復習 仰臥位 上肢
15	5/12	仰臥位 上肢②(三角胸筋溝～上肢伸展)		40	7/10	実技試験
16	5/15	仰臥位 上肢②(三角胸筋溝～上肢伸展)		41	7/14	実技試験
17	5/19	仰臥位 上肢①+②		42	7/14	実技試験
18	5/19	仰臥位 上肢①+②		43	7/17	復習 仰臥位 下肢
19	5/22	仰臥位 上肢①+②		44	7/21	復習 伏臥位
20	5/26	仰臥位 下肢①(大腿前側部～大腿外側部)		45	7/21	復習
21	5/26	仰臥位 下肢①(大腿前側部～大腿外側部)		46	9/1	横臥位 横臥位①(頸部)
22	5/29	仰臥位 下肢②(膝蓋骨周囲部～下肢伸展)		47	9/1	横臥位 横臥位①(頸部)
23	6/2	仰臥位 下肢②(膝蓋骨周囲部～下肢伸展)		48	9/4	横臥位 横臥位①(頸部)
24	6/2	仰臥位 下肢①+②		49	9/8	横臥位 横臥位②(肩甲上部～脊柱なでおろし)
25	6/5	仰臥位 下肢①+②		50	9/8	横臥位 横臥位②(肩甲上部～脊柱なでおろし)

51	9/15	横臥位 横臥位②(肩甲上部～脊柱なでおろし)	79	11/24	復習 全身
52	9/15	横臥位 横臥位①+②	80	11/24	復習 全身
53	9/18	横臥位 横臥位①+②	81	11/27	復習 全身
54	9/22	横臥位 横臥位①+②	82	12/1	復習 全身
55	9/22	仰臥位 胸部(左肋間部～なでおろし)	83	12/1	復習 全身
56	9/25	仰臥位 胸部(左肋間部～なでおろし)	84	12/4	実技試験
57	9/29	仰臥位 腹部①(触診～小腸部)	85	12/8	実技試験
58	9/29	仰臥位 腹部①(触診～小腸部)	86	12/8	実技試験
59	10/2	仰臥位 腹部②(下行結腸部～振動掌圧)	87	12/11	復習 全身
60	10/6	仰臥位 腹部②(下行結腸部～振動掌圧)	88	12/15	復習 全身
61	10/6	仰臥位 腹部①+②	89	12/15	復習 全身
62	10/9	仰臥位 腹部①+②	90	1/11	復習 全身
63	10/13	仰臥位 腹部①+②	91	1/13	全身操作
64	10/13	復習 横臥位・伏臥位通し	92	1/18	全身操作
65	10/16	復習 横臥位・伏臥位通し	93	1/20	全身操作
66	10/20	復習 仰臥位通し	94	1/25	全身操作
67	10/20	復習 全身	95	1/27	全身操作
68	10/23	復習 全身	96	2/1	全身操作
69	10/27	復習 全身	97	2/3	全身操作
70	10/27	復習 全身	98	2/8	全身操作
71	10/30	復習 全身	99	2/10	全身操作
72	11/6	復習 全身	100	2/15	全身操作
73	11/10	復習 全身	101	2/17	実技試験
74	11/10	復習 全身	102	2/22	実技試験
75	11/13	復習 全身	103	2/24	全身操作
76	11/17	復習 全身	104	3/1	全身操作
77	11/17	復習 全身	105		
78	11/20	復習 全身			

<b>教科書 参考書等</b>	指圧療法学 改訂第1版② 国際医学出版
<b>評価方法</b>	出席状況、授業態度、定期試験による評価が60点以上で単位を認定する。
<b>成績評価指標</b>	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満

## 2021年度 昼間部

科目		医療概論		
科目分野	専門基礎 分野	学期	前期	
学年	1 年次	担当教員	大木 慎平	
単位数	1 単位		実務経験	臨床実習指導4年
【授業の概要】 授業形態 講義				
過去の時代に生き、医療を行った人々の功績を学び、医療従事者としての姿勢、職業倫理を考えていく。				
【到達目標】				
過去の医療、今後の医療を検討できるような考えを身につける。 現代医療の課題、医療制度を理解する。				
回	日付	授業計画	回	日付
1	4/5	医学史序説 医学史の意義と特質	16	/
2	4/12	古代の医学-古代ギリシア医学-	17	/
3	4/19	中世-ルネサンスの西洋医学-	18	/
4	4/26	17世紀～19世紀の西洋医学	19	/
5	5/10	19世紀～20世紀の西洋医学	20	/
6	5/17	中国の医学	21	/
7	5/24	古代～中世の日本医学	22	/
8	5/31	近世の日本医学	23	/
9	6/7	近代の日本医学	24	/
10	6/14	現代医学の課題	25	/
11	6/21	現代の医療制度-医療従事者と医療経済-	26	/
12	6/28	医療保険の仕組み	27	/
13	7/5	医療従事者の倫理-医療倫理、臓器移植-	28	/
14	7/12	試験	29	/
15	7/19	医療従事者の倫理-施術者としての倫理-	30	/
教科書 参考書等	医療概論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 適宜配布する資料をメインに進めていく。			
評価方法	筆記試験の結果から評価する。 60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

## 2021年度 昼間部

科 目		運動器解剖学			
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前中 期		
学 年	1 年次	担当教員	大久保直子		
単位数	2 単位		実務経験		
【授業の概要】 授業形態 講義					
あん摩マッサージ指圧師に必要な運動器系の解剖学を学習する。 骨や筋肉を正しく理解し、指圧実技修得の基礎を構築する。					
【到達目標】					
骨の名称、筋肉の名称、付着部位、作用、支配神経を正しく述べるができる。					
回	日付	授業計画	回	日付	授業計画
1	4 / 6	第10章運動器系 総論	16	8 / 30	第10章運動器系 頭蓋の骨
2	4 / 13	第10章運動器系 関節の種類	17	9 / 6	第10章運動器系 運動・体幹の筋
3	4 / 20	第10章運動器系 脊柱	18	9 / 13	第10章運動器系 体幹の筋
4	4 / 27	第10章運動器系 脊柱	19	9 / 27	第10章運動器系 体幹の筋
5	5 / 11	第10章運動器系 胸郭	20	10 / 4	第10章運動器系 上肢の筋
6	5 / 18	第10章運動器系 上肢の骨	21	10 / 11	第10章運動器系 上肢の筋
7	5 / 25	第10章運動器系 上肢の骨	22	10 / 18	第10章運動器系 上肢の筋
8	6 / 1	第10章運動器系 上肢の骨	23	10 / 25	第10章運動器系 上肢の筋
9	6 / 8	第10章運動器系 上肢の骨	24	11 / 1	第10章運動器系 下肢の筋
10	6 / 15	第10章運動器系 下肢の骨	25	11 / 8	第10章運動器系 下肢の筋
11	6 / 22	第10章運動器系 下肢の骨	26	11 / 15	第10章運動器系 下肢の筋
12	6 / 29	第10章運動器系 下肢の骨	27	11 / 22	第10章運動器系 下肢の筋
13	7 / 6	第10章運動器系 下肢の骨	28	11 / 29	第10章運動器系 頭頸部の筋
14	7 / 13	前期定期試験	29	12 / 6	中期定期試験
15	7 / 20	第10章運動器系 頭蓋の骨	30	12 / 13	第10章運動器系 頭頸部の筋
教科書 参考書等		『解剖学』第2版 東洋療法学校協会 編			
評価方法		原則、定期試験で評価する。 出席状況、授業態度や小テストを加えることもある。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

## 2021年度 昼間部

科目		形態機能生理学			
科目分野	専門基礎 分野	学期	前 中 期		
学年	1 年次	担当教員	金子智久		
単位数	2 単位		実務経験	治療院勤務3年、出張治療院経営19年	
【授業の概要】 授業形態 講義					
<p>あん摩・マッサージ・指圧師を目指すものにとって、生理学は解剖学と並んで双璧をなす重要専門基礎科目である。臨床各科目の基礎となり、国家試験においても臨床的比重は重い。また、あん摩・マッサージ・指圧の作用機序を理解するためには必要不可欠である。これらの事を考慮して、テキストを十分理解し、基礎を固めることを目的とする。</p>					
【到達目標】					
<p>あん摩・マッサージ・指圧の作用機序について生理学的に説明できる。また、細胞の構造・機能、体液の組成、循環、呼吸、消化と吸収、代謝、体温、排泄、内分泌系について生理学的に説明でき、臨床医学各科目の基礎・土台を築き、生理学的に解釈できる。</p>					
回	日付	授業計画	回	日付	
1	4/5	オリエンテーション、生理学とは	16	8/30	消化と吸収① 構造と機能、口腔内の消化
2	4/12	生理学の基礎1 細胞の構造と働き	17	9/6	消化と吸収② 胃内の消化、小腸内の消化と吸収
3	4/19	生理学の基礎2 物質代謝の仕組み	18	9/13	消化と吸収③ 大腸内の消化と吸収 排便
4	4/26	生理学の基礎3 体液の組成と働き、物質の移動	19	9/27	消化と吸収④ 消化管ホルモン 肝臓の働き
5	5/10	循環① 総論、赤血球	20	10/4	代謝① 栄養素とエネルギー代謝
6	5/17	循環② 白血球、免疫系の役割、血小板	21	10/11	代謝② 三大栄養素、ビタミン無機質 水
7	5/24	循環③ 血漿、血液凝固の仕組み、血液型	22	10/18	体 温 部位差と変動 産熱と放熱 体温調節
8	5/31	循環④ 心臓の構造と機能、心筋の基本性質	23	10/25	排 泄① 腎臓の構造と働き 尿の組成
9	6/7	循環⑤ 刺激伝導系、心電図、心臓の神経支配	24	11/1	排 泄② 腎臓による体液の調節
10	6/14	循環⑥ 血管系の構造と機能、血圧	25	11/8	内分泌① ホルモンの特徴
11	6/21	循環⑦ 循環の調節、特殊な部位の循環	26	11/15	内分泌② 内分泌腺の働きa
12	6/28	循環⑧ 特殊な部位の循環(続き)、リンパ	27	11/22	内分泌③ 内分泌腺の働きb
13	7/5	呼吸① 呼吸気系の構造と機能、呼吸運動	28	11/29	内分泌④ 内分泌腺の働きc
14	7/12	呼吸② 肺機能、ガス交換とガスの運搬、期末試験	29	12/6	生殖・成長① 生殖・成長・老化、期末試験
15	7/19	呼吸③ 呼吸運動の調節	30	12/13	生殖・成長② 生殖・成長・老化
教科書 参考書等	生理学 第3版 社団法人 東洋療法学校協会 編 適時プリントを配布する。				
評価方法	客観的試験考査及び出欠席、授業態度、到達度評価試験等を総合して評価する。				
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:70～89点 (3)C:60～69点 (4)D:60点未満				

## 2021年度 昼間部

科目		英語			
科目分野	基礎 分野	学期	前期		
学年	1 年次	担当教員	野川 奈美恵		
単位数	2 単位				
<b>【授業の概要】</b> 授業形態 講義					
<p>お客様に満足いただける施術を提供できるように、自己紹介と施術に必要な専門用語、ならびに必要とされる会話を身につける。さらに、コーチングを通して卒業後のありたい姿を明確にする。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介ができる。</li> <li>・施術に必要なフレーズを理解して会話ができる。</li> <li>・卒業後のありたい姿が明確になる。</li> </ul>					
回	日付	授業計画	回	日付	授業計画
1	4 / 3	オリエンテーション	16	/	
2	4 / 10	自己紹介作成	17	/	
3	4 / 17	Unit 1	18	/	
4	4 / 24	Unit 2	19	/	
5	5 / 8	Unit 3 小テスト①	20	/	
6	5 / 15	Unit 4	21	/	
7	5 / 22	Unit 5 小テスト②	22	/	
8	5 / 29	Unit7、Body parts	23	/	
9	6 / 5	Unit6、小テスト③、グループ・テーマ決め	24	/	
10	6 / 12	Unit 8、グループ学習	25	/	
11	6 / 19	グループ学習、小テスト④	26	/	
12	6 / 26	リハーサル	27	/	
13	7 / 3	寸劇発表	28	/	
14	7 / 10	寸劇総論	29	/	
15	7 / 17	将来のありたい姿	30	/	
<b>教科書 参考書等</b>		Caring for People センゲージラーニング株式会社			
<b>評価方法</b>		小テスト(30%)、試験(70%)。授業への参加態度も考慮する。 評価60点以上で単位を認定する。			
<b>成績評価指標</b>		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

## 2021年度 昼間部

科目		心理学			
科目分野	専門 分野	学 期	前 期		
学 年	1 年次	担当教員	荒木乳根子		
単位数	2 単位		実務経験		
<b>【授業の概要】</b> 授業形態 講義					
<p>心理学の領域はとても広いのですが、将来指圧師として役立つと思われる内容、ご自身の人生に役立つと思われる内容を取り上げます。自分について知る、ストレスを上手くコントロールするすべを知る、心の病や高齢者の心理について知る、相手との良好なコミュニケーションをとり、話しを傾聴する上で必要な知識を得る、などです。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>自分を知り心の健康を維持できること、他者の気持ちを理解し良好な人間関係を維持できること、必要に応じて他者の話をカウンセリング的に傾聴できることを目指します。</p>					
回	日付	授業計画	回	日付	授業計画
1	4 / 6	オリエンテーション 関係作りのエクササイズ	16	/	
2	4 / 13	より良いコミュニケーションのために	17	/	
3	4 / 20	ストレスおよびストレスコーピング	18	/	
4	4 / 27	個性はさまざま パーソナリティ	19	/	
5	5 / 11	自分を知る エゴグラム	20	/	
6	5 / 18	人とかかわり 対人魅力、集団と個人など	21	/	
7	5 / 25	心の健康と病① さまざまな心の病	22	/	
8	6 / 1	心の健康と病② さまざまな心の病	23	/	
9	6 / 8	カウンセリング① 基本的な考え方	24	/	
10	6 / 15	カウンセリング② 傾聴の技法	25	/	
11	6 / 22	カウンセリング③ ロールプレイ	26	/	
12	6 / 29	高齢者の心理① 精神機能の加齢変化など	27	/	
13	7 / 6	高齢者の心理② 認知症	28	/	
14	7 / 13	前期試験	29	/	
15	7 / 20	自他を知る グループワーク「流されて」	30	/	
<b>教科書 参考書等</b>		教科書はありませんが、必要に応じて資料を配付します。			
<b>評価方法</b>		前期試験によって評価します。			
<b>成績評価指標</b>		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

2021年度 昼間部

科目		神経機能生理学			
科目分野	専門基礎 分野	学期	前 中 期		
学年	1 年次	担当教員	大木 慎平		
単位数	2 単位		実務経験	臨床実習指導4年	
【授業の概要】 授業形態 講義					
神経、筋、運動、感覚、生体防御の機能を学び、今後の学習の基礎を身につける。					
【到達目標】					
神経機能の機序を理解し、説明することができる。					
回	日付	授業計画		回	日付
1	4/8	神経1 ニューロンの構造と働き		16	8/31
2	4/15	神経2 神経線維の興奮伝導		17	9/7
3	4/22	神経3 シナプス伝達		18	9/14
4	5/1	神経4 中枢神経系①—分類と機能、反射、脊髄		19	9/21
5	5/6	神経5 中枢神経系②—脳幹、小脳、視床		20	9/28
6	5/13	神経6 中枢神経系③—大脳、脳脊髄液		21	10/5
7	5/20	神経7 末梢神経系①—脳神経・脊髄神経		22	10/12
8	5/27	神経8 末梢神経系②—脳神経・脊髄神経		23	10/19
9	6/3	神経9 自律神経系①—概要		24	10/26
10	6/10	神経10 自律神経系②—興奮伝達		25	11/2
11	6/17	神経11 自律神経③—中枢・反射		26	11/9
12	6/24	筋1 骨格筋の構造と働き・収縮の仕組み		27	11/16
13	7/1	筋2 筋のエネルギー供給の仕組み 心筋と平滑筋		28	11/30
14	7/8	試験		29	12/7
15	7/15	運動1 骨格筋の神経支配①		30	12/14
教科書 参考書等		生理学 第3版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版 適宜配布する資料をメインに進めていく。			
評価方法		各期の筆記試験から評価する。不定期に実施する小テストからも加点する。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満			



## 2021年度 昼間部

科目		神経系解剖学			
科目分野	専門基礎 分野	学期	前中 期		
学年	1 年次	担当教員	大久保直子		
単位数	2 単位		実務経験		
<b>【授業の概要】</b> 授業形態 講義					
あん摩マッサージ指圧師に必要な神経系の解剖学を学習する。 各神経の働きを理解し、次年度に学習する臨床系科目の基礎を構築する。					
<b>【到達目標】</b> 神経系の名称、各神経の走行や働きを述べるができる。					
回	日付	授業計画	回	日付	授業計画
1	4 / 2	第1章人体の構成 組織	16	8 / 26	第8章神経系 脳神経
2	4 / 9	第1章人体の構成 神経組織	17	9 / 2	第8章神経系 脳神経
3	4 / 16	第8章神経系 神経系の基礎	18	9 / 9	第8章神経系 脊髄神経
4	4 / 30	第8章神経系 大脳	19	9 / 16	第8章神経系 脊髄神経
5	5 / 7	第8章神経系 大脳・脳室	20	9 / 30	第8章神経系 脊髄神経
6	5 / 14	第8章神経系 間脳	21	10 / 7	第8章神経系 脊髄神経
7	5 / 21	第8章神経系 中脳・小脳	22	10 / 14	第8章神経系 脊髄神経
8	5 / 28	第8章神経系 橋・延髄	23	10 / 21	第8章神経系 自律神経
9	6 / 4	第8章神経系 脳の血管	24	10 / 28	第8章神経系 自律神経
10	6 / 11	第8章神経系 脊髄	25	11 / 4	第9章感覚器系 視覚器
11	6 / 18	第8章神経系 伝導路	26	11 / 11	第9章感覚器系 視覚器
12	6 / 25	第8章神経系 伝導路	27	11 / 18	第9章感覚器系 平衡聴覚器
13	7 / 2	第8章神経系 頭蓋骨と脳神経	28	11 / 25	第9章感覚器系 味覚器
14	7 / 9	前期定期試験	29	12 / 9	中期定期試験
15	7 / 16	第8章神経系 頭蓋骨と脳神経	30	12 / 16	第1章人体の構成 皮膚
<b>教科書 参考書等</b>		『解剖学』第2版 東洋療法学校協会 編			
<b>評価方法</b>		原則、定期試験で評価する。 出席状況、授業態度や小テストを加えることもある。			
<b>成績評価指標</b>		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

## 2021年度 昼間部

科目		内臓器系解剖学			
科目分野	専門基礎 分野	学期	前 中 期		
学年	1 年次	担当教員	飯村 彰		
単位数	2 単位		医科大学、歯科大学 解剖教育 35年		
【授業の概要】 授業形態 講義					
人体の循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器、生殖器系、内分泌系の構造を理解し、各部の名称を把握する。					
【到達目標】					
各器官系の構造を理解すると共に器官系の隣接関係を理解し、疾患の診断・治療を学修する基礎を構築する。					
回	日付	授業計画	回	日付	授業計画
1	4 / 2	人体の構成 細胞、組織	16	8 / 27	消化器系 基本構造
2	4 / 9	人体の構成 体表構造、人体の区分と方向	17	9 / 3	消化器系 口腔
3	4 / 16	循環器系 血管系	18	9 / 17	消化器系 咽頭
4	4 / 30	循環器系 心臓(1)	19	9 / 24	消化器系 食道、胃
5	5 / 7	循環器系 心臓(2)	20	10 / 1	消化器系 小腸
6	5 / 14	循環器系 動脈(1)	21	10 / 8	消化器系 大腸
7	5 / 21	循環器系 動脈(2)	22	10 / 15	消化器系 肝臓、胆嚢
8	5 / 28	循環器系 静脈	23	19 / 22	消化器系 膵臓、腹膜
9	6 / 4	循環器系 胎児循環	24	10 / 29	泌尿器系 腎臓
10	6 / 11	循環器系 リンパ系	25	11 / 5	泌尿器系 尿路
11	6 / 18	呼吸器系 鼻腔、副鼻腔	26	11 / 12	生殖器系 男性生殖器
12	6 / 25	呼吸器系 咽頭、喉頭	27	11 / 19	生殖器系 女性生殖器、発生
13	7 / 2	呼吸器系 気管、気管支、肺(1)	28	11 / 26	内分泌系 下垂体、松果体、甲状腺
14	7 / 9	呼吸器系 肺(2)	29	12 / 3	内分泌系 上皮小体、副腎、膵臓
15	7 / 16	総合復習	30	12 / 10	総合復習
教科書 参考書等		医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 河野邦雄、伊藤隆造著 解剖学			
評価方法		試験を中心に課題提出物の評価を合わせて評価する。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満			

## 2021年度 昼間部

科目		保健体育			
科目分野	基礎 分野	学 期	前中 期		
学 年	1 年次	担当教員	阿原 典子		
単位数	2 単位		実務経験	中・高保健体育 1年	
<b>【授業の概要】</b> 授業形態 <b>講義</b> 健康について様々な角度から考え、健康・スポーツに関する知識を深め、適切な判断・行動を身につける。心身の健康に関わる保健分野とスポーツに関わる体育理論分野で構成し、概説する。					
<b>【到達目標】</b> 充実した生活を送るうえで、心身が健康であることは重要である。さらに将来、就職した際に健康に関する知識を修得していることは、職業柄必須であると言える。本授業を通して身体的な健康のみならず心理的な健康の知識や運動・スポーツの知識を深めることを目指す。					
回	日付	授業計画	回	日付	授業計画
1	4 / 8	前期ガイダンス	16	8 / 26	中期ガイダンス
2	4 / 15	私たちの健康のすがた・とらえ方	17	9 / 2	心身の相関とストレス
3	4 / 22	健康と意思決定・環境づくり	18	9 / 9	運動と心の健康
4	5 / 1	生活習慣病・食事	19	9 / 16	心の健康と自己実現
5	5 / 6	運動・休養・睡眠と健康	20	9 / 30	心の健康とトレーニング
6	5 / 13	喫煙・飲酒と健康	21	10 / 7	高齢化社会と健康
7	5 / 20	オリンピック	22	10 / 14	働くことと健康
8	5 / 27	応急手当の基本と日常的な応急手当	23	10 / 21	ウォーミングアップ・ストレッチ・ケア
9	6 / 3	心肺蘇生	24	10 / 28	筋力トレーニングと体力向上
10	6 / 10	現代社会とこれから	25	11 / 4	持久トレーニングと体力向上
11	6 / 17	人間にとって「動く」とは何か	26	11 / 11	運動やスポーツでの安全確保
12	6 / 24	スポーツの上達過程	27	11 / 18	私たちの暮らしと健康
13	7 / 1	スポーツと体力	28	11 / 25	私たちの健康とは
14	7 / 8	前期理解度確認(前期テスト)	29	12 / 9	中期理解度確認(中期テスト)
15	7 / 15	フィードバック・前期保健体育まとめ	30	12 / 16	フィードバック・保健体育まとめ
<b>教科書 参考書等</b>		無し			
<b>評価方法</b>		出席・レポート点(30%)・テスト(70%)の合計で各期の評価とする。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。			
<b>成績評価指標</b>		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

## 2021年度 昼間部

科目		生化学			
科目分野	基礎 分野	学期	中 期		
学年	1 年次	担当教員	宇野 茂之		
単位数	2 単位				
<b>【授業の概要】</b> 授業形態 講義 生体を構成する細胞は、如何にしてエネルギーを獲得し活動しているのでしょうか。 ・生体が必要とする物質を理解し、摂取された物質がどのように代謝され、利用されて行くのかを理解する。					
<b>【到達目標】</b> ・様々な疾患と代謝との関係を生化学的な観点から説明できる。					
回	日付	授業計画	回	日付	授業計画
1	8 / 28	生化学とは 細胞の構造 細胞小器官の役割	16	/	
2	9 / 4	細胞膜の特徴 物質輸送	17	/	
3	9 / 18	タンパク質 タンパク質の分類 アミノ酸の構造と性質	18	/	
4	9 / 25	タンパク質の高次構造 酵素 酵素の役割 酵素の反応様式	19	/	
5	10 / 2	酵素による代謝調節と異常症 酵素の臨床診断への応用	20	/	
6	10 / 9	糖質 糖質の種類 糖質の分解と吸収 糖質の役割	21	/	
7	10 / 16	脂質 脂質の構造と種類 脂質の特徴 脂質・コレステロール輸送	22	/	
8	10 / 23	核酸 核酸の構造 転写と翻訳および複製	23	/	
9	10 / 30	遺伝子の異常と分子医学 遺伝子工学 遺伝病の原因	24	/	
10	11 / 6	生体物質の代謝 糖質の代謝 ATPの産生	25	/	
11	12 / 13	脂質の代謝 タンパク質の代謝 尿素回路	26	/	
12	12 / 20	代謝異常と疾患 ヌクレオチドの代謝	27	/	
13	12 / 27	ポルフィリン代謝 ポルフィリンの代謝と疾患	28	/	
14	12 / 4	中期試験	29	/	
15	12 / 11	中期試験の解説 ビタミン ビタミンの種類 ビタミンの作用	30	/	
<b>教科書 参考書等</b>		推奨図書:コンパクト生化学(南江堂) わかりやすい生化学(疾病と代謝・栄養の理解のために)(ヌーヴェルヒロカワ) トコトンわかる基礎生化学			
<b>評価方法</b>		中期試験の結果で評価する。			
<b>成績評価指標</b>		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満			

2021年度 昼間部

科目		社会福祉		
科目分野	基礎 分野	学期	中 期	
学年	1 年次	担当教員	工藤 豪	
単位数	2 単位		実務経験	
<p>【授業の概要】 授業形態 講 義</p> <p>わが国における社会福祉の歴史的展開を社会経済状況と関連させながら把握する。また、人口高齢化についての基本的知識を理解するとともに、少子化の定義・推移・要因・影響などについて考察を深める。そして、わが国における社会保障の仕組みを確認し、医療・介護・年金・生活保護の特質や課題について講義する。</p>				
<p>【到達目標】</p> <p>なぜ日本は少子高齢化が著しいのか？、なぜ日本は少子化を克服することができないのか？、少子高齢化が著しいと医療・介護・年金・生活保護など社会保障にどのような影響が及ぼされるのか？などについて説明できるようになる。</p>				
回	日付	授業計画	回	日付
1	8/27	社会福祉の歴史的展開(1)—戦前の日本—	16	/
2	9/3	社会福祉の歴史的展開(2)—戦後の日本—	17	/
3	9/17	人口高齢化(1)—世界と日本の人口動向—	18	/
4	9/24	人口高齢化(2)—人口高齢化の概念と推移—	19	/
5	10/1	人口高齢化(3)—人口移動と老年人口割合—	20	/
6	10/8	少子化(1)—合計出生率の推移とその背景—	21	/
7	10/15	少子化(2)—少子化の要因と対策—	22	/
8	10/22	少子化(3)—未婚化の背景—	23	/
9	10/29	社会保障と社会福祉(1)—社会保障制度—	24	/
10	11/5	社会保障と社会福祉(2)—医療保険制度①—	25	/
11	11/12	社会保障と社会福祉(3)—医療保険制度②—	26	/
12	11/19	社会保障と社会福祉(4)—介護保険制度—	27	/
13	11/26	社会保障と社会福祉(5)—年金保険制度—	28	/
14	12/3	試験	29	/
15	12/10	社会保障と社会福祉(6)—生活保護制度—	30	/
教科書 参考書等		教科書は使用しません。資料を配付します。参考文献は適宜、紹介します。		
評価方法		試験(60%)、受講態度(20%)、リアクションペーパー(20%)から総合的に評価する。		
成績評価指標		<p>1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。</p> <p>2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。                      (1)A:90～100点 (2)B:70～89点 (3)C:60～69点 (4)D:60点未満</p>		

## 2021年度 昼間部

科目		社会保障制度及び職業倫理			
科目分野	専門基礎 分野	学 期	後 期		
学 年	1 年次	担当教員	大木 慎平		
単位数	1 単位		実務経験	臨床実習指導4年	
【授業の概要】 授業形態 講 義					
あん摩マッサージ指圧師として社会と関わっていく上で、身につけておくべき社会制度に関する知識や倫理を学ぶ。					
【到達目標】					
医療者として直面する問題を解決するための価値判断ができるようになる。					
回	日付	授業計画	回	日付	
1	1/12	社会保障制度の概要	16	/	
2	1/17	高齢者保健福祉①	17	/	
3	1/19	高齢者保健福祉② その他の社会保障制度	18	/	
4	1/24	保健医療① 医療を取り巻く状況	19	/	
5	1/26	保健医療② 医療保険制度その1	20	/	
6	1/31	保健医療③ 医療保険制度その2	21	/	
7	2/2	医療倫理の歴史① 古代～近代の医療倫理	22	/	
8	2/7	医療倫理の歴史② 現代の医療倫理	23	/	
9	2/9	医療倫理の方法論	24	/	
10	2/14	生殖技術	25	/	
11	2/16	脳死・臓器移植の問題	26	/	
12	2/21	終末期をめぐる問題	27	/	
13	2/28	患者の権利と公共の福祉 医学研究と研究倫理	28	/	
14	3/1	試験	29	/	
15	3/3	到達度評価試験	30	/	
教科書 参考書等		適宜配布する資料をメインに進めていく。			
評価方法		試験結果から評価する。 60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

## 2021年度 昼間部

科目		生理学			
科目分野	分野	学期	後 期		
学年	1 年次	担当教員	金子智久		
単位数	単位		実務経験	治療院勤務3年、出張治療院経営19年	
<b>【授業の概要】</b> 授業形態 講 義 形態機能生理学、神経機能生理学と生理学の学習を終えたことを踏まえ、臨床医学の学習へと繋げて行くべく、更に生理学の理解を深め、生理学実習をも含め、定着させて行く。					
<b>【到達目標】</b> 2、3年生で学習する臨床医学、リハビリテーション医学、病理学、あん摩マッサージ指圧理論等を学ぶに当たり、生理学は専門基礎医学としてとても重要である。これらを踏まえ、2、3年生の履修科目の理解を生理学的に正しく理解し説明出来る基礎を養う。					
回	日付	授業計画		回	日付
1	1/12	生理学問題演習①		16	/
2	1/19	生理学問題演習②		17	/
3	1/26	生理学実習(血圧計の使い方)		18	/
4	2/2	生理学実習(指圧施術による血圧の変化)		19	/
5	2/9	生理学実習(聴覚検査法)		20	/
6	2/16	生理学実習(マリオットの盲点、残像と視相)		21	/
7	/			22	/
8	/			23	/
9	/			24	/
10	/			25	/
11	/			26	/
12	/			27	/
13	/			28	/
14	/			29	/
15	/			30	/
<b>教科書 参考書等</b>		生理学 東洋療法学校協会編、また随時プリントを配布する			
<b>評価方法</b>		授業への取り組み方、出欠席等を総合して評価する。			
<b>成績評価指標</b>		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:70～89点 (3)C:60～69点 (4)D:60点未満			

## 2021年度 昼間部

科目		臨床指圧総論 I			
科目分野	専門 分野	学 期	後 期		
学 年	1 年次	担当教員	石塚 洋之		
単位数	1 単位		実務経験	10年以上	
【授業の概要】 授業形態 実 技					
1年で学習した基本指圧をふまえ、より精度の高い圧を身につけ、身体の触察、圧法の種類などを学ぶ。また、基本指圧を主軸に臨床指圧の基礎を学ぶ。					
【到達目標】					
押圧の理論を知り実践することで、より精度の高い垂直圧・持続圧を目指す。2年生、3年生での臨床実習での基礎的な知識を身につける。					
回	日付	授業計画		回	日付
1		基本指圧と機能解剖学／運動動作に対応する指圧【肩関節】① 筋肉の作用からアプローチ部位を組み立てる			1/6
2		基本指圧と機能解剖学／運動動作に対応する指圧【肩関節】② 作用筋以外が原因の動作制限			1/13
3		基本指圧と機能解剖学／運動動作に対応する指圧【肩関節】③ 関連関節(アライメント)による動作制限			1/20
4		肩関節の復習			1/27
5		基本指圧と機能解剖学／運動動作に対応する指圧【腰部】① 動作時痛から考える			2/3
6		基本指圧と機能解剖学／運動動作に対応する指圧【腰部】② 動作時痛から考える			2/10
7		肩関節障害評価と指圧法			2/17
8		記録と問診・考察			2/24
教科書 参考書等		指圧療法学 国際医学出版／主にプリントを配布し利用します。			
評価方法		出席状況、授業に対する取り組み方等を総合して評価する。 欠席は5点、遅刻・早退は3点減ずる。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			



## 2021年度 昼間部

科目		臨床指圧総論 I			
科目分野	専門 分野	学 期	後 期		
学 年	1 年次	担当教員	金子智久		
単位数	1 単位		実務経験	治療院勤務3年、出張治療院経営19年	
【授業の概要】		授業形態	実 技		
1年で学習した基本指圧をふまえ、より精度の高い圧を身につけ、身体の触察、圧法の種類などを学ぶ。また、基本指圧を主軸に臨床指圧の基礎を学ぶ。					
【到達目標】					
押圧の理論を知り実践することで、より精度の高い垂直圧・持続圧を目指す。2年生、3年生での臨床実習での基礎的な知識を身につける。					
回	日付	授業計画	回	日付	
1	1/11	スタンスのチェック、支えの作り方、指作り	16	/	
2	1/17	横臥位基本操作と分界項線の押し方	17	/	
3	1/25	横臥位基本操作とローテーターカフの押し方	18	/	
4	2/1	横臥位基本操作と肩甲間部の押し方	19	/	
5	2/8	横臥位による全身操作	20	/	
6	2/15	伏臥位基本操作と応用(上半身)	21	/	
7	2/22	伏臥位基本操作と応用(下半身)	22	/	
8	3/1	仰臥位腹部基本指圧の押し方	23	/	
9	/		24	/	
10	/		25	/	
11	/		26	/	
12	/		27	/	
13	/		28	/	
14	/		29	/	
15	/		30	/	
教科書 参考書等		指圧療法学 国際医学出版			
評価方法		出席状況、授業に対する取り組み方等を総合して評価する。 欠席は5点、遅刻・早退は3点減ずる。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:70～89点 (3)C:60～69点 (4)D:60点未満			